

自己紹介

平成二年五月以降に昇格

腎センター教授

内藤 説也



東北の片田舎で生まれ幼時旧満州に渡り、終戦一年後に帰国以後小学・中学・高校を佐世保で過ごし、昭和三十三年九大医学部を卒業、九一年、内、内をへて昭和四十八年四月から福岡大二内主として腎臓病の診療、教育、研究を担っていました。今回恩師荒川規矩男教授や菊池病院長の御推薦を受け福岡大学腎センター教授の公選に応じ医学部教授会より選任されました。

腎移植の手術は泌尿器科で現在まで生体腎移植八例、死体腎移植一例がなされていますが、腎センターでは術前透析、ドナー・レシピエント選択、免疫抑制剤の選択などを泌尿器科と共同してやっています。



岩崎 敬雄

の研究をやっています。現在では血清学的な方法によるタイピング以外にHLAのDNAタイピングも行っています。今後、腎センターは透析台数の拡張、腎移植の推進などを行っていきたくと思っています。各病棟からの透析やCAVHその他いろいろな要望には出来る限り迅速に対応する所存ですが、いろいろ御不満なこともあるかと存じますので遠慮なく言っていただければと思います。今後ともご協力、ご支援の程よろしくお願い致します。

リハビリテーション部助教授

北九州市戸畑生れ、小倉育ち。昭和四十五年鹿児島大学卒業後、九州大学整形外科へ入局。昭和四十九年四月より福岡大学病院リハビリ部に赴任。当時のリハ部は訓練士が二人で理学療法士はおらず施設、機器も貧弱なものでし

教室紹介

福岡大学病理学第二

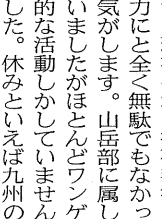
病理学第二講座も福大医学部の設置に伴って一九七四年四月に開設された。当教室の研究のメインは循環器病理と腎臓病である。循環器系は高血圧性脳血管障害(脳出血、脳梗塞、脳血栓症、血管性痴呆)、心筋梗塞、虚血性冠疾患、高血圧性腎硬化症等を含む動脈硬化症全般を、主として電子顕微鏡を使った超微形

脈病変の主役を演ずる平滑筋細胞の特異性を細胞内代謝、蛋白質合成などの面から研究を進めている。腎臓病は糸球体腎炎、糖尿病性腎症、腎アミロイド症などの研究が主体で、尿異常を有する患者さんの腎生検材料は九州各地、山口県、島根、鳥取、岡山、四国や関西方面からも各大学病院も含めて診断依頼が来ている。今では症例数も八五〇例近くに達している。この数は全国最高になっている。これらの症例は病歴や予後結果と共に光顕、螢



鬼村修太郎

昭和五十二年九州大学を卒業し、そのまゝ福大心臓外科に入局。以後、半年間の一般外科研修を除けば一貫して心臓外科の御指導のもとに心臓外科、血管外科の臨床、研究にとりくんでまいりました。



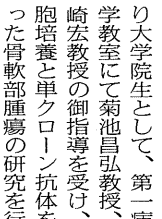
池田 実

昭和二十七年長崎県生まれ。昭和五十四年昭和大学卒業。同年、福岡大学整形外科入局。二年間の臨床研修の後、大学院へ進みました。高岸教授から慢性関節リウマチに関するテーマを頂き、リウマチ性疾患に関する勉強をする機会を得ました。高岸教授、九州大学第一生化学、高木康敬教授、九州大学医療短大、穴井元昭教授の御指導のもとに実験を行ない、「慢性関節リウマチ関節液中の酸性DNA



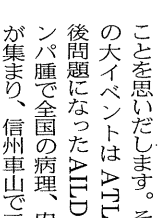
池田 実

昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。



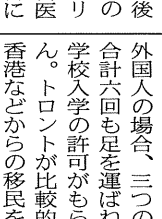
池田 実

昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。



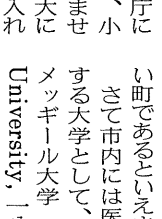
池田 実

昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。



池田 実

昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。



池田 実

昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。昭和五十七年十一月より約半年間、国立がんセンター整形外科で、骨軟部腫瘍の研修を行いました。昭和五十八年より福岡大学整形外科へ戻り、高岸直人教授の指導の下に、一般整形外科を研修しました。

海外便り

「マリアの町から」
(モントリオール 便り)

一木 貞徳

モントリオールはセントローレンス川の中洲に一六四二年フランス人の手で建設された町で、カナダではケベック市(ケベック州の首府)について歴史の古い都会です。カナダの開拓はセントローレンス川沿いに東から西へ進められ、フランス人は、この地をヌーベルフランスと呼びました。モントリオールの旧い呼び名をウィル・マリイ(マリアの町)といいます。

カナダの他の諸州と異なり、ケベック州では住民の八割以上がフランス系であることを反映して、カトリック信仰が強いこと、フランス語が唯一の公用語であること(一九七七年のフランス憲章による)が、たゞしモントリオール市内だけは、日常場面で英語が通じるなど際立った特色があります。近年、義務教育の場でもフランス語教育の徹底が叫ばれ、英語系市民でも、フランス語を第一言語として指導されています。また移民に対する厳しい規制。例えば外国人の場合、三つの官庁に合計六回も足を運ばねば、小学校入学の許可がもらえませんが、トロントが比較的寛大に香港などからの移民を受け入れているのと対照的なのです。そして現在浮上している独自の通貨制度への動き。英字新聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。

それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

聞(ガゼット)が、「どこへ行くのかケベックよ」という特集を組んでいましたが、英連邦からの独立、栄光のヌーベルフランス復活が、フランス系住民の悲願なのです。それはともかく、モントリオールは美しく平和な町です。電柱がない。路面電車が。超層ビルもない。そのため町全体が静かで明るく感じられます。どこ迄も続くメープルリーフの並木と、いたる所に点在する森のような公園。石畳の旧市街とダウンタウンのカラフルな建築群、そして北米カトリックの総本山ノートルダム教会をはじめ、天空高く聳える諸教会の鐘塔。モントリオールは百の都とも呼ばれる。とが見事に調和した街の景観。広大な地下街と東西南北に走るメトロ(地下鉄)。その六十五の駅はすべて異なるデザイナーによる設計。多くの美術館や博物館。七十六年オリムピックのメーンスタジアム(現在は開閉式ドーム球場として使用。メジャーリーグのモントリオールエクスポスのホームグラウンド)。まさに旅行者のみならず、そこに住む者を魅きつけて止まない素晴らしい町であるといえます。

さて市内には医学部を有する大学として、英語系のメギール大学(McGill University、一八二九年創立。カナダ最古の医学学校)と、仏語系のモントリオール大学(Université de Montréal、略称 U de M、一八七六年創立)とがあります。U de M は学生数五万八千人、十三学部、二附属短大、三附属病院、二研究所を擁し、仏語圏ではパリ大学につぐ規模を誇ります。私の所属するノートルダム病院は、U de M の附属病院で、二

(三頁より続)

「忙しいけれども
有意義な研修生活」

福岡大学医学部第二内科
研究生 紅 英

私は八幡川奨学金の援助で、中国衛生部の厳しい留学試験に合格し、日本での研修の機会を得ました。今、福岡大学医学部第二内科の荒川教授の指導の下、循環器の基礎、脂質代謝などを勉強しています。

私の故郷は中国の北部で、内蒙古の呼和浩特という町です。そこは13の少数民族からなる自治区で、おもな少数民族は蒙古族です。内蒙古自治区は広く、日本の面積の約三倍です。東部は森林、北部は草原、西部は砂漠、鉱産物等資源は豊富です。主な産業は牧畜です。牧民は蒙古包(ペオ)にすんでいます。みなさんはTVなどで見たことがありませんか？ 天気は福岡と全く違います。冬になるとマイナス25度、30度とたいへん寒いです。

私は内蒙古の中蒙医院で仕事をしました。漢方薬で循環器の病気を研究、治療していました。日本に来て、福岡大病院の先進設備と高度な医療技術などを観て、驚きました。日本の医療研究状態はすばらしいと思います。

日本の医療制度も完璧です。医療保険制度のおかげで、患者さんは病気の時もそんなに困らないようです。老人保険が発達して、老人の医療費はほとんどかかりません。この様な医療制度は世界的に、望ましい立派な制度だと思っています。

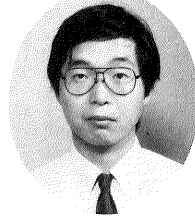
福岡大病院も管理も優秀です。院内は広く歩いていても清潔で、器材、器具がよく整理、管理されています。先生方は患者さんに対して、優しく診察し、治療されます。婦長さんや、看護婦さんたちは先生方をよく助けて、患者さんにまるで自分の身内の人のように、心を配ってお世話されています。

福岡大病院は荒川教授をはじめ、先生方は皆よくがんばっています。毎年、第二内科の先生方は多くの優秀な論文を発表され、いろいろな国際学会へ出席されます。このすばらしい成果は、荒川教授をはじめ、助教の先生方の努力によるものです。若い先生方以上にがんばって、毎日早くから、夜遅くまで、研究されます。ほとんどの先生方は夏休みもとらずにがんばられます。先生方の熱心な研究態度に私は、大きく影響されました。

「親心・子心(4)」

—— 全人的医療を目指して ——

精神神経科研修医 李 健勲



精神科の研修医となって半年、今では白衣に白い名札(学生は色付の名札)をつけて病院中を徘徊しています。研修医となったことはその名札と自覚と患者に対する責任である、と思います。しかし自問してみると白衣を着ているだけで患者に対して優位に立っているのではないかと、自分自身の考え方を押しつけていないか、という反省もあります。成程、白衣を着ている以上治療者患者関係は成立します。けれども忙しい日常診療の中でいついつい研修医の身分で忙しうついでに患者を診察したり、自分の不安を投影したりそんな半年でした。まるで風の中の小舟から必要でないと思われるものを捨てるように……。

古来より医療は神職、法政とともに三大専門職業の一つでした。よく「医の倫理」、「病む人の気持ち」という言葉が引き合いにだされまわります。けれども病む人の気持ちがわかるのでしょうか、どれだけのわかつたかというのでしようか。どれだけ言葉は擦りきれているのでしょうか。一つには言葉を呪文の様に繰り返すことで一種の免罪符になっているのかもしれない。

研修医の第一の目的は専門的な知識、技術を身につけることだと思っています。そして同時に良識人たる人の幅を広げることでもあると信じています。そのためには初めて泳ぎを習う時のようにまず飛び込んで、夢中で足掻くしかありません。経験が自分の中で高まるまで努力と忍耐をもち

教室 便り

受賞

西園 昌久(精神医学) 日本精神分析学会賞 (古澤賞)

井手口 裕(臨床検査医学) 臨床研究奨励基金(平成二年度臨床研究助成)

井手口 裕(臨床検査医学) 臨床研究奨励基金(平成二年度臨床研究助成)

黒木 政秀、春野 政虎(生化学第一) 研究業績「溶血性貧血における赤血球膜異常の解析」

平成二年度福岡県対がん協会研究助成金(がん研究に対する助成)

研究業績「高感度腫瘍マーカー測定系の確立と現行キットの見直し」

平成二年度以降の海外留学または海外から本学の留学生はつぎのとおり。

海外留学 ①研修先②目的③期間 有富 貴道(内科学第二) ①アメリカ、The Graduate Hospital, Univ. of Pennsylvania ②実験 ③90.7.1~91.6.30

岡部 眞典(内科学第二) ①アメリカ、クリブランドクリニック研究所の循環器疾患における自律神経機能③90.8.~92.7

一木 貞徳(小児科学) ①カナダ・モントリオール大学②膠原病の生化学③90.7.1から一年間

小川 厚(小児科学) ①米国・カリフォルニア大学サンフランシスコ校心臓血管研究所②新生児疾患の病理生理学③90.7.1から一年間

左野 千秋(外科学第二) ①アメリカ、ハーバード大学②救急医学における基礎的臨床的研究Basic and clinical study on emergency surgery.③90.5(一年程度)

蜂谷 隆彦(眼科学) ①アメリカ、マイアミ大学・バスコンパルマー眼研究所②薬剤除毒性ポリマーの研究③90.8~91.8

平塚 義治(泌尿器科学) ①米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校②尿路悪性腫瘍の研究③90.6~91.5

松本信一郎(産科婦人科学) ①アメリカ、Univ. of Massachusetts, Dept. of Zoology ②神経内分泌と性行動について③90.5~92.4

田中 経一(麻酔科学) ①Dept. of Anesthesiology, Univ. of Texas as Southwestern Medical Center at Dallas, U.S.A. ②術中輸液の研究③90.9.1~12.31

河村 康司(病理学第二) ①アメリカ、イリノイ大学②インサイド研究所、モナ心臓研究所の脂質代謝と動脈硬化に関する病理学的研究③90.7~92.6

原田 良子(微生物学) ①Lady Davis Institute for Medical Research (カナダ・モントリオール) ②細胞受容体の研究③90.7~91.6

Prof. Iseji Watanabe ①ラジアル、サンパウロ大学医学部解剖学教授②解剖山田英智教授の教室で、細胞の超微構造の電顕的観察③90.8.1~12.31

来 訪

平成 2 年 5 月以降、本学医学部または病院を訪れた外国人学者はつぎのとおり。①所属 ②目的 ③来訪日 ④訪問先

Dr. Lyman Wynne ①Lochester University, USA (Professor) ②分裂病家族セミナー(於 福岡大学セミナーハウス)において講演「分裂病への家族コンサルテーション: 心理教育的接近とシステム論的接近の統合」③1990. 6. 8 ④精神医学教室

Dr. Ching-piao Chien ①Taipei City Psychiatric Center, Taiwan (Director) ②教室講演(特に演題は設けず) ③1990. 6. 18 ④精神医学教室

中久喜雅文博士 ①もと東京大学精神科講師・現在米国コロラド州にて精神分析的療法家として活躍中 ②教室講演「Tripolar self ー精神分析における自己の概念ー」 ③1990. 10. 25 ④精神医学教室

Dr. Lester Luborsky ①University of Pennsylvania, USA (Professor) ②福岡精神分析研究会にて講演「The results of psychotherapy and studies of therapeutic mechanisms」 ③1990. 10. 29 ④精神医学教室

Mohamed A. Karmali, M. D. ①Professor, Department of Microbiology, The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada.

②大腸菌の verocytotoxin に関する講演(総合研究所主催) “Hemolytic uremic syndrome, hemorrhagic colitis and verocytotoxin-producing Escherichia coli.” ③1990. 9. 25 ④小児科学教室

Francis Mégraud ①フランス、ボルドー大学、細菌学教授 ②“Peptic Ulcer: Is it an Infectious Disease?” ③1990. 8. 2 ④外科学第二教室

Prof. Otto Sneppen ①Professor Orthopaedic Surgery, Orthopaedic Hospital, Denmark ②第79回西日本整形・災害外科学会 特別講演のため “Humeroscapular instability. Experimental cadaver study and their clinical relevance.” ③1990. 6. 20 ④整形外科教室

Dr. Robert J. McBroom ①Assistant Professor, University of Toronto, Canada ②第79回西日本整形・災害外科学会 特別講演のため “The treatment for the metastatic spinal tumor.” ③1990. 6. 22 ④整形外科教室

Dr. David Bowsher, M. D. ①Director of Research and Postgraduate Studies, Pain Relief Foundation's Pain Research Institute, Liverpool, U. K. ②講演 “Neurogenic pain.” ③1990. 9. 13 ④麻酔科学教室

Jann Nielsen ①米国 Pfizer 社 中央研究所 (Senior Research Scientist) ②講演: 肥満 (Obesity) について ③1990. 10. 22 ④薬理学教室

Hartmut Müller ①Universität Frankfurt am Main (Priv. Doz. Dr. med.) ②講演 “HIV-1-associated malignant non-Hodgkin lymphomas.” ③1990. 4. 20~1990. 5. 25 ④病理学第一教室

Bong Hak Hyun ①Thomas Jefferson University Hospital (Clinical Professor and Director of Hematology) ②講演 “Myeloma in bone marrow specimen.” ③1990. 5. 25 ④病理学第一教室

編集後記

◆今号は、日頃もつとも学生のことに心を砕いていたという新進気鋭の満留教務委員と赤羽学生部委員に両氏の最近の学生生活を語ってもらった。心温まる叱咤と激励は今更ながら、両氏の日頃の苦勞がよみとれる。◆講師以上の新任教官(昇格を含め)の交換も、今回は内藤説也教授をはじめ七氏を数えた。今後の各氏のご活躍を期待する。◆また、国際化がいよいよ現実化してきた。海外だよりが増え、海外のリサーチ・ウィジッターや来訪者もへ々々々々という感じである。嬉しい悲鳴であるが、一方では、そのために新刊紹介や教室紹介の一部を割愛せざるを得なくなるのも編集者としては心苦しい。深くお詫言ふと共に、時代に合った編集を考えるとときがきたのかも知れない。よいアイデアがあったら是非とも意見を寄せてほしい。◆今号を編集中に田川隆輔教授(解剖学第一)が急逝された。ご冥福をお祈りするとともに、次号では是非、追悼の特集を組みたいと考えている。(US生)

田川先生の御冥福を祈る

第一解剖学教授田川隆輔先生は去る十月二十九日(月)午後七時五十二分動脈瘤破裂のため急逝なさいました。その日もいつものように一日を過ごされ、午後の講義のあと「今日は疲れたと言われましたが、教室員にも常のように話をされ帰られました。夕刻外出の車中で容態が急変され、貝塚病院で六十二才の生涯を閉じられました。あまりにも突然の御逝去で信じ難い思いですが、先生の御冥福をお祈り致します。次号に、追悼特集を掲載致します。